

1 調査名称：笠岡市都市・地域総合交通戦略策定調査業務

2 調査主体：笠岡市

3 調査圏域：笠岡市全域

4 調査期間：令和2年度

5 調査概要：

J R 笠岡駅周辺地区には、J R 山陽本線笠岡駅をはじめ、路線バスのターミナル、タクシープール、笠岡諸島有人7島への旅客船が発着する旅客船ターミナルといった交通の拠点施設が集積しており、交通結節点として地の利を有している。しかしながら、地区内をJ R 山陽本線の鉄路と国道2号の道路が地区内を東西に貫いていること、さらには駅出口が北側にしかないことから、交通結節点としての一体感に乏しいうえ、駅と港間のアクセスも観光客等駅利用者には分かりづらく、陸上交通と海上交通の連携に支障がある。

一方、令和元年5月には笠岡諸島を含む備讃諸島が日本遺産への認定を受け、今後、笠岡諸島への観光客の誘致、外国人旅行者によるインバウンドが期待されることから、J R 笠岡駅周辺地区は非常にポテンシャルの高い地区であるとともに、立地適正化計画においても、非常に重要な位置づけがされている地区であるにも関わらず、その優位性を生かし切れていない。

こうした状況から、立地適正化計画に掲げたコンパクトで魅力溢れるまちづくりの実現を目指し、交通事業とまちづくりが連携した総合的かつ戦略的な交通施策を推進するため、都市・地域総合交通戦略策定に必要な調査を行うものである。

I 調査概要

1 調査名称：笠岡市都市・地域総合交通戦略策定調査業務

2 報告書目次

1 地域の現状把握

1-1 都市構造及び交通ネットワークの整理

1-1-1 地域特性の整理

- (1) 位置・地勢
- (2) 人口動向
- (3) 土地利用状況
- (4) 交通手段特性
- (5) 主要施設分布状況
- (6) 観光動向

1-1-2 交通ネットワークの現況整理

- (1) 道路ネットワーク
- (2) 公共交通の現状
- (3) 笠岡駅周辺の整備状況

1-2 都市の人の動きの把握

1-2-1 パーソントリップ調査

- (1) 回答者属性
- (2) 発生・集中交通量
- (3) 地域間移動の実態
- (4) 代表交通手段
- (5) 駅端末交通手段

1-2-2 駅周辺における交通量調査

- (1) 調査概要
- (2) 調査結果

1-3 市民意識・ニーズの把握

- (1) 福山・笠岡地域公共交通網形成計画策定調査における市民アンケート調査など
- (2) J R 笠岡駅周辺整備基本構想策定における市民アンケート調査
- (3) 笠岡駅鉄道利用者等動向調査及び交通結節点分析業務におけるアンケート調査

2 上位・関連計画の整理

- (1) 第7次笠岡市総合計画
- (2) 笠岡市都市計画マスタープラン
- (3) 笠岡市立地適正化計画
- (4) 福山・笠岡地域公共交通網形成計画
- (5) J R 笠岡駅周辺整備基本構想

3 課題の整理

3 調査体制

令和２年度においては実施出来ておりません。

4 委員会名簿等：

II 調査成果

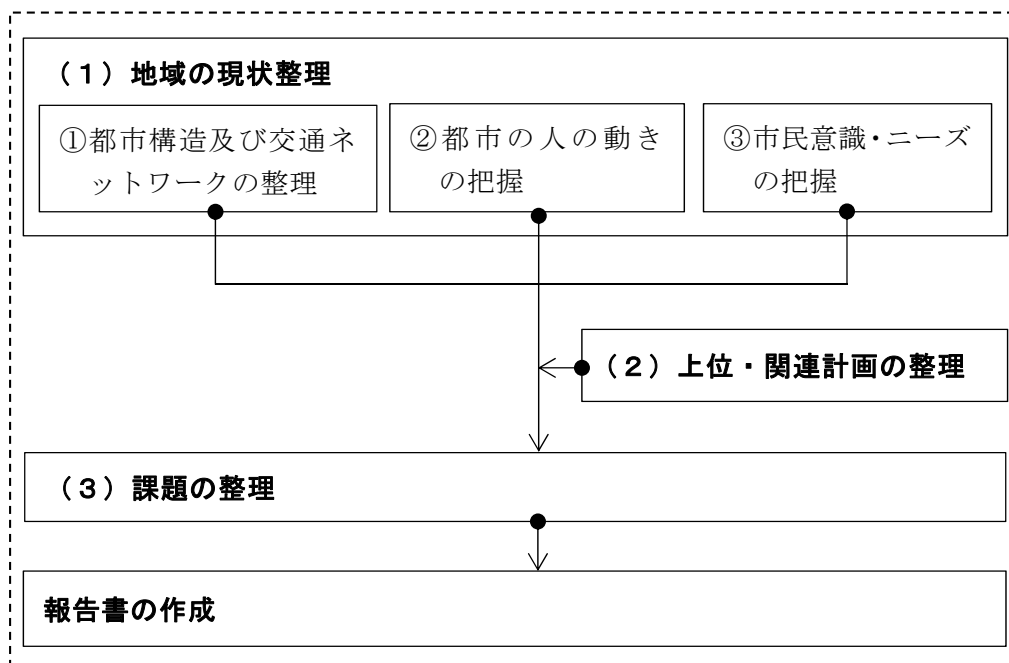
1 調査目的

都市における今後のまちづくりにおいて、急激な人口減少や少子高齢化など様々な社会経済環境の変化に対応することが大きな課題となっている。あわせて、高齢者や子育て世代など誰もが安心して健康で快適な生活を送ることができる環境を提供することが求められている。

笠岡市においても人口減少や少子高齢化等を背景とした、まちの活力の低下、公共交通利用者の減少、空き家・空き店舗の増加、さらには厳しい財政状況などから、都市を維持していく上で深刻な課題が顕在化してきている。

本業務では、「笠岡市立地適正化計画」の基本方針や目指すべき都市像等を踏まえ、公共交通の利用実態や住民・利用者のニーズ、地域条件等を整理し、本市が直面している問題点・課題を抽出した上で、それらの解決や魅力ある都市の将来像の実現に不可欠な都市交通環境を構築するための総合的・一体的な施策展開の取組みについて整理した「笠岡市都市・地域総合交通戦略」を策定することを目的とする。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

人口動向

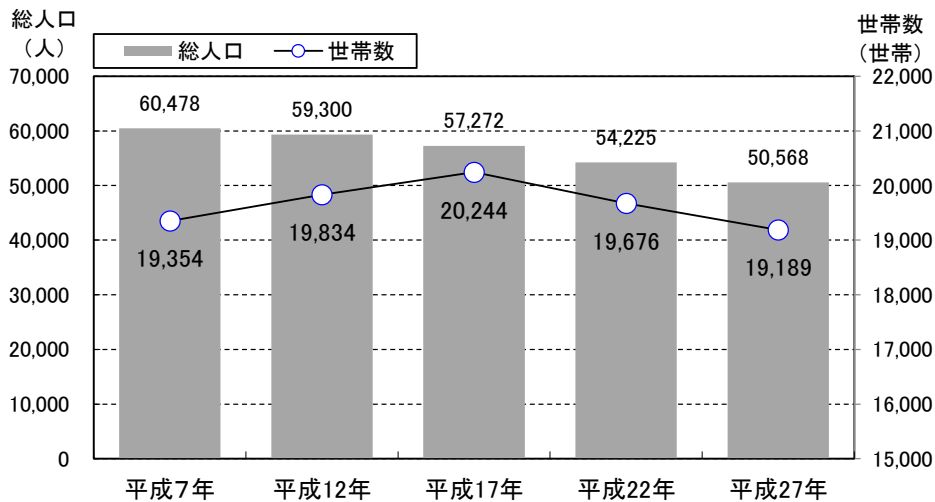
総人口及び世帯数

笠岡市の総人口は、令和2年4月1日現在、47,613人（笠岡市住民登録人口）で、平成7年以降減少しており、平成27年には50,568人と20年間で10,000人程度（16.4%減少）している。

世帯数は、令和2年4月1日現在、22,106世帯で、平成17年以降減少しており、平成27年には19,189世帯と、10年間で1,000世帯程度減少している。

将来人口フレームは、「第7次笠岡市総合計画（平成30年4月）」において令和7年度に46,461人と設定しており、今後も減少することが予想されている。

■総人口・世帯数の推移



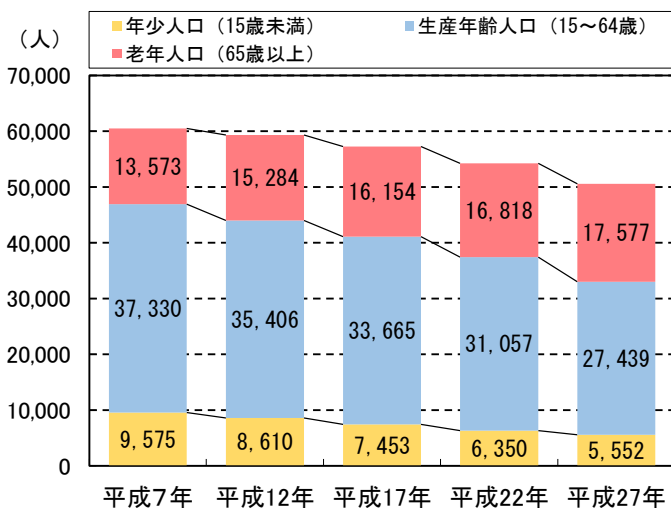
出典：国勢調査

年齢3区分別人口

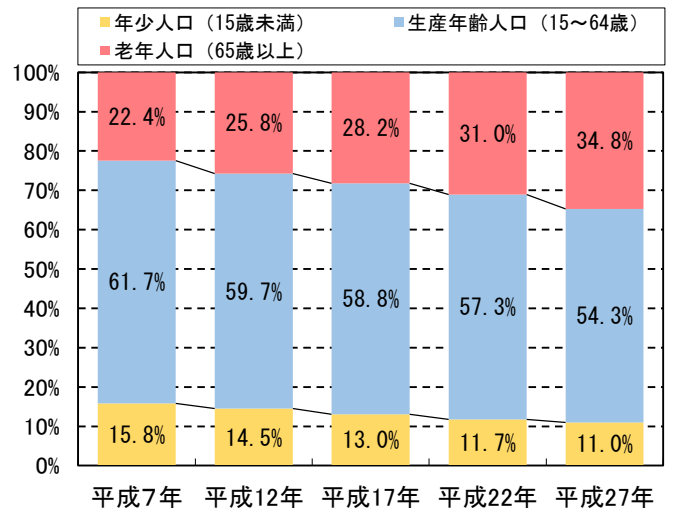
年齢3区分人口構成比（平成27年）は、年少人口が11.0%、生産年齢人口が54.3%、老年人口が34.8%となっており、推移を見ると、年少人口と生産年齢人口が減少し、老年人口の割合が増加している。

平成27年の高齢化率は34.8%と、国（26.8%）岡山県（28.7%）と比較してもその割合が高く、急速に高齢化が進んでいる

■年齢3区分別人口の推移



■年齢3区分別構成比の推移



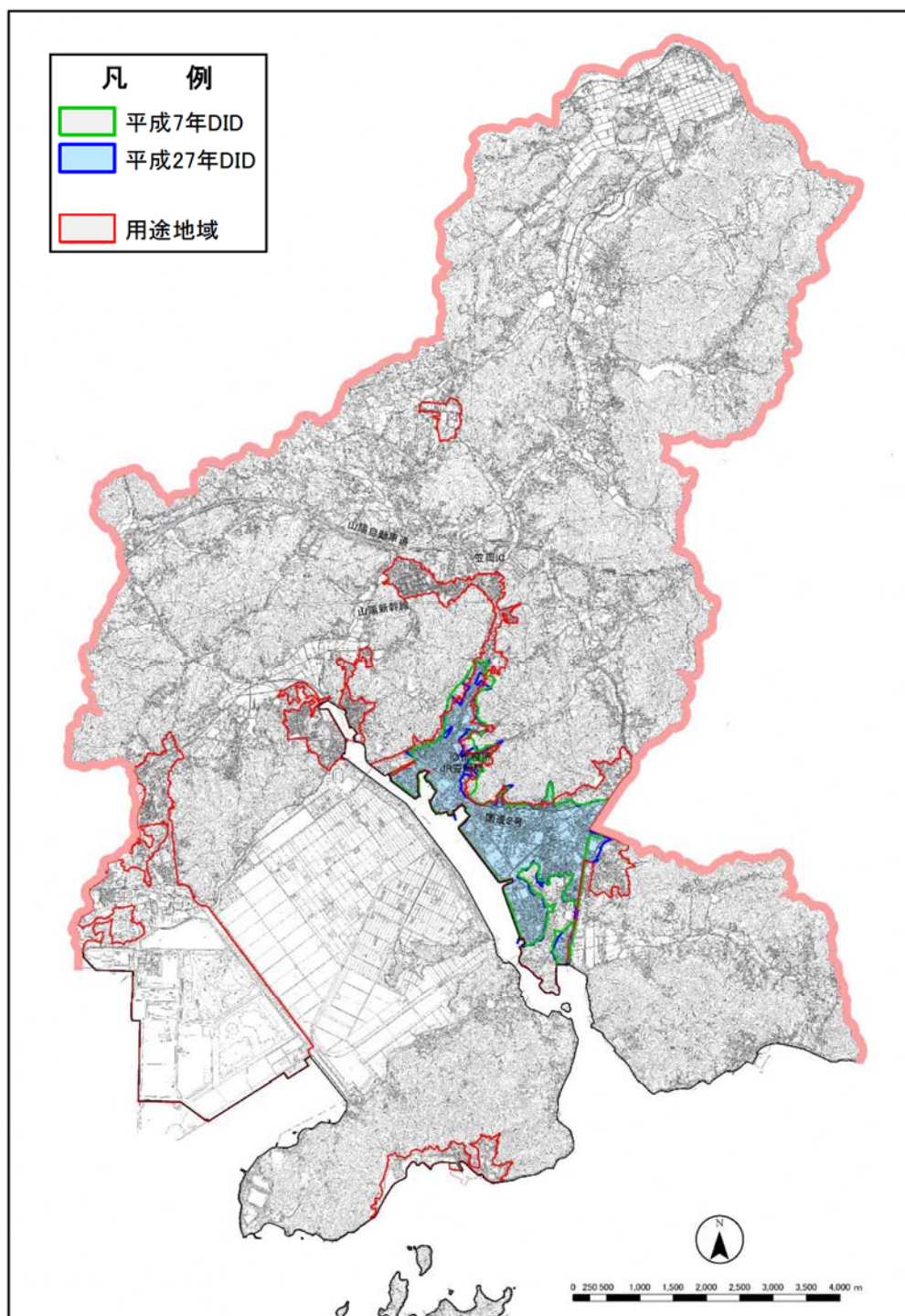
D I D（人口集中地区）

平成 27 年の D I D（人口集中地区）人口は 14,405 人で、D I D 面積は 4.0 km² となっており、D I D の変遷を見ると、面積は概ね横ばいとなっているが、区域内の人口が減少しているため、人口密度は減少している。

■ D I D 人口と面積、人口密度の推移

	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
人口（人）	16,798	16,798	16,682	16,006	14,405
面積（km ² ）	4.1	4.2	4.1	4.1	4.0
人口密度（人/km ² ）	4,107.1	4,038.0	4,039.2	3,903.9	3,646.8

出典：国勢調査

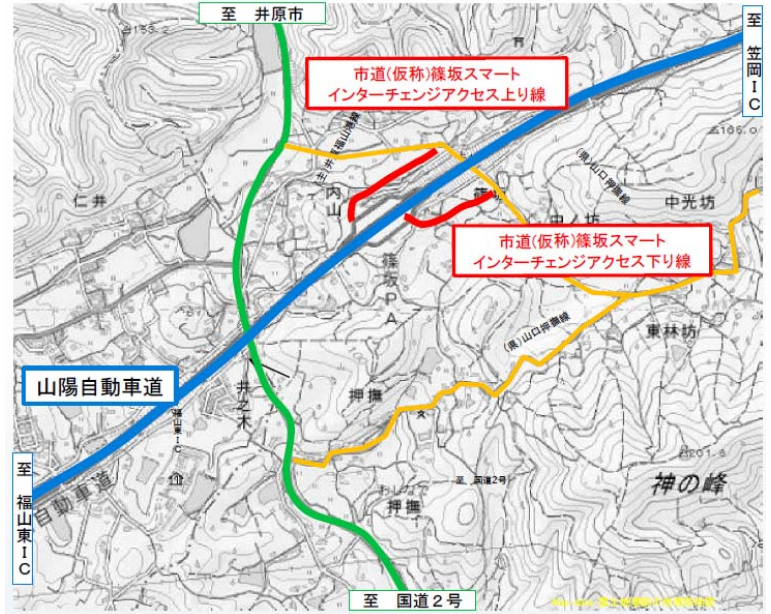


(仮称) 篠坂PAスマートIC

篠坂PAスマートICは、令和2年10月23日に事業化が決定し、供用開始に向け事業を進めている。

■ (仮称) 篠坂PAスマートICの概要

路線名	山陽自動車道 吹田山口線
連結位置	岡山県笠岡市篠坂
連結予定施設	市道(仮称)篠坂スマートインターチェンジ上り線・下り線
対象車種	E T C 車載器を搭載した全車種
運用形態	フル方向IC
運用時間	24時間



出典：(仮称) 篠坂PAスマートIC実施計画書（令和2年9月、笠岡

公共交通の現状

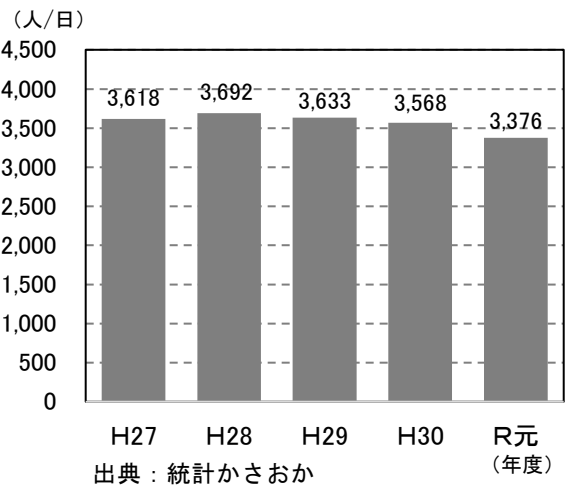
1) 陸上交通

① 鉄道

笠岡市内の鉄道は、JR山陽本線が東西に走っており、笠岡駅1駅が設置されている。運行本数は平日が68.5往復、休日が57.5往復となっている。

令和元年度の笠岡駅の1日平均利用者数は3,376人/日で、推移を見ると、平成28年度から微減傾向となっており、直近5年間の伸び率は0.93倍と減少している。

■ 笠岡駅1日当たり利用者数の推移



②路線バス

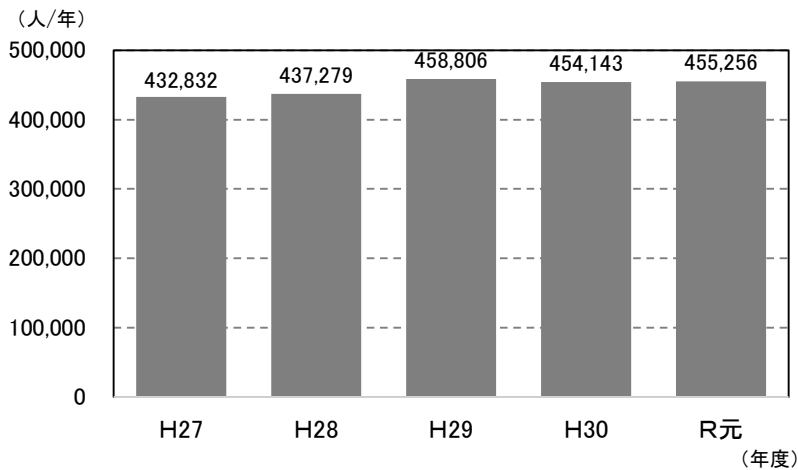
路線バスは、平成24年10月31日に井笠鉄道(株)の事業撤退により、路線の整理・再編を行った上で、(株)井笠バスカンパニーが事業を引き継ぎ、現在、JR笠岡駅を起終点（一部、笠岡市立市民病院）に放射状に10路線が運行している。

令和元年度の年間利用者数は455,256人/年で、推移を見ると、直近3年間の平成29年度から令和元年度にかけてほぼ横ばい状態となっている。

■路線バスネットワーク図



■路線バスの年間利用者数の推移



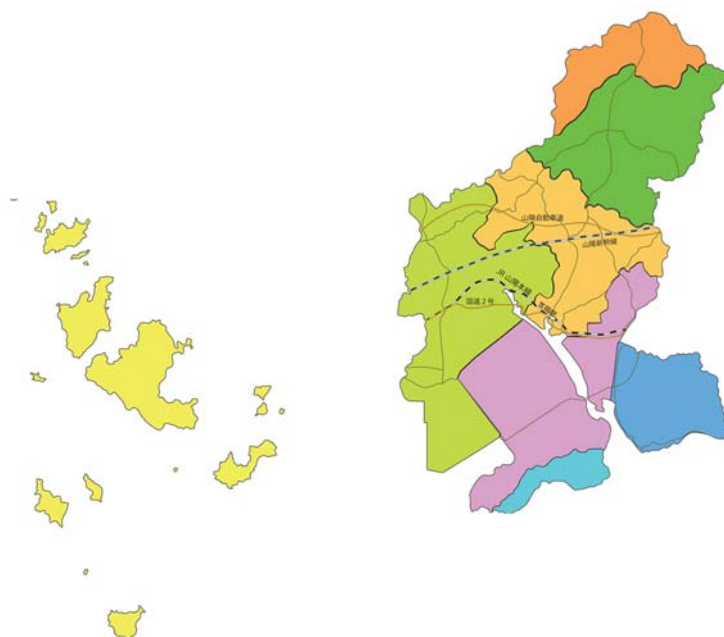
パーソントリップ調査

人の移動実態などについて把握し、これからの交通計画を検討する上での基礎資料とするために、市民アンケート調査を行った。

調査対象者	市内在住 15 歳以上の市民 6,000 世帯（無作為抽出） ※世帯主及び 15 歳以上（令和 2 年 12 月 1 日時点）の世帯員
調査方法	郵送配布、郵送回収 ※令和 2 年 12 月 2 日（水）発送～12 月 16 日（水）締切 ※各世帯に調査票 3 通同封
調査項目	○回答者の属性：住まい、性別、年齢 ○調査日：12 月 9 日（水）にいた場所と施設の種類、外出有無 ○調査日の交通行動：目的地と施設の種類、移動の目的、出発・到着時間、交通手段（鉄道利用者は乗車・降車の駅名、自動車利用者は運転有無）
回収状況	回収数：2,144 世帯（回収率：35.7%） 回収票数：4,136 票

■ゾーン分類

ゾーン	区域（地番）
A	走出、甲弩
B	吉田・関戸・尾坂・新賀・山口
C	笠岡・中央町・春日台・大井南・園井・今立・広浜・馬飼・小平井・東大戸・西大戸・みの越
D	旭が丘・城見台・西茂平・金浦・吉浜・生江浜・大河・相生・大冨・用之江・茂平・有田・押撫・篠坂・入田
E	富岡・一番町・二番町・三番町・四番町・五番町・六番町・七番町・八番町・九番町・十番町・十一番町・緑町・新横島・美の浜・絵師・神島・横島・入江・港町・カブト東町・カブト中央町・拓海町
F	大島中、西大島・西大島新田
G	神島外浦
H	高島・飛島・白石島・北木島・真鍋島・六島



回答者属性

1) 属性別傾向

回答者の内訳は、男性が46.6%、女性が53.4%と女性の方が多く、年齢別で見ると65歳未満の人と65歳以上の人の割合は、概ね半数ずつを占めている。

外出率（調査当日、外出した人の割合）は66.0%であり、高齢者ほど低くなっている。またゾーン別にみると、島しょ部（Hゾーン）における外出率が低い。

2) 調査開始時の場所

調査日のはじめにいた場所をゾーン別および施設ごとに見ると、92%の人は自宅におり、居住するゾーンから調査をはじめている。

3) 目的別トリップ傾向

目的別にトリップ数を見ると、「帰宅」「仕事」「買物」「その他の私事」「送迎・付き添い」の順に多い。その移動手段も全体で見ると約70%は自家用車での移動となっている。

出発時間帯別の発生数（目的の不明な「その他の私事」以外）を見ると、「仕事」は6時～9時の時間帯、「買物」は午前中、「帰宅」は16時～19時の時間帯がピークとなっており、「送迎・付き添い」は、通勤・通学や帰宅の時間帯に合わせて多くなっている。

4) 年齢別トリップ傾向

年齢別にトリップ数を見ると、就労就学の年齢層は、通勤・通学および帰宅の時間帯にトリップ数が多くなっており、一方65歳以上の層は、正午前後の時間帯にトリップ数が多くなっている。

5) 地域間移動の実態

全目的および目的別トリップ数で件数の多かった目的について地域間移動のODを算出し、図示したものを以下に示す。

自ゾーン（地域）以外の移動は、市内においてはJR笠岡駅のあるCゾーン、笠岡市立市民病院のあるDゾーン、および公共施設が多く立地するEゾーンへの移動が多い。また、市外へは福山市、岡山県（岡山市や倉敷市など）のトリップが多く、目的別にみると市外への移動は「仕事」での移動が多くなっている。

課題の整理

地域の現状及び上位・関連計画の整理結果を踏まえ、交通に関する課題を体系的に整理する。

■現状分析およびパーソントリップ調査からみえる課題

【本市の現況】

<地域特性>

- 高齢化率 34.8%（平成 27 年時点の 65 歳以上の人の割合）と岡山県の 28.7%と比較しても高く、高齢化が急速に進んでいる。
- 主要施設については、JR 笠岡駅周辺に市役所などの公共施設が集約されている。
- 観光施設として、道の駅笠岡ベイファームやカブトガニ博物館、竹喬美術館などが立地し、また大小 31 の島々で構成された笠岡諸島がある。

<道路ネットワーク>

- 山陽地方を東西に結ぶ広域交通の主軸として一般国道 2 号があり、周辺市町や市内各地域間を連絡するように笠岡井原線などにより構成されている。

<公共交通>

- 鉄道は、JR 山陽本線が東西に走っており、笠岡駅 1 駅が設置されている。
- JR 笠岡駅を起終点に放射状に 10 路線が運行している。
- 市内のタクシー会社は 5 社が運行中で、車両保有台数は 5 社合計で 48 台となっている。
- 会場交通は、旅客船とフェリーの 6 航路が運行している。

【市民意識・ニーズ】

<福山・笠岡地域公共交通網形成計画策定調査における市民アンケート調査など>

- 交通環境に満足する市民は半数弱で、不満の回答は約 24%となっている。特に 80 歳代以上の女性においては交通環境への不満が大きい。
- 不満を感じる理由としては、バスの本数の少なさを挙げる意見が最も多い。移動が不満な行き先は、駅、次いで病院が多い。

<JR 笠岡駅周辺整備基本構想策定における市民アンケート調査>

- 笠岡駅周辺への来訪頻度は、「月に 2～3 日程度」が 35.1%と最も高く、「ほとんど毎日」は 15.0%程度である。
- 来訪目的は、「買い物」が最も多く、次いで「笠岡駅の利用」「笠岡駅への送迎」となっている。
- 笠岡駅周辺地区への利用交通手段は、自家用車が最も多く、81.1%となっている。
- 笠岡駅南改札口及び駅前広場が整備された場合の利用意向は、「主に利用する」と「たまに利用する」を合わせると 61.2%を占めている。

<笠岡駅鉄道利用者等動向調査及び交通結節点分析業務におけるアンケート調査>

- 笠岡駅降車後の進行方向は、北側が 52.7%、南側が 37.1%となっている。
- 駅からの移動手段は、「徒歩」が 42.9%、「自転車」が 14.9%と徒歩圏内の移動が多い。
- 駅周辺の問題点は、「改札が北側にしか無いので不便」が 42.0%で最も多く、次いで「駅への送迎用停車スペースが不足している」が 27.7%、「駐車場が不足している」が 27.0%と多い。
- 駅周辺に欲しい施設は、問題点で回答の多かった内容で「駐車場・駐輪場」が 31.4%、「南北道路」が 31.0%と多い。

【パーソントリップ調査・駅周辺交通量調査】

<外出率と平均トリップ>

- 外出率は、66.0%と H27 の全国値（平日）80.9%より低い結果となっており、高齢者ほど低くなっている。
- 平均トリップ数は、市平均で 1.58 であり、最も多いのが 40 歳代の 2.4 で、最も低いのが 75 歳以上で 0.9 となっている。

<発生集中交通量>

- 発生集中交通量は、目的別構成で見ると、「帰宅」を除くと「仕事」のトリップが最も多く、次いで「買物」、「その他の私事」、「送迎・付き添い」が多い。

<地域間の移動>

- 市内での移動については、JR 笠岡駅や公共施設などが集約する笠岡地区のCゾーン及び番町地区のEゾーン発着のトリップが多い。
- 各方面への交通量は、仕事での移動が多く、福山市方面及び岡山県方面（井原市、矢掛町、矢口市、里庄町を除く）が多くなっている。

<代表交通手段>

- 市全域では自家用車が77.9%と最も多く、続いて二輪車、徒歩となっている。

<駅端末交通手段>

- 駅への端末交通手段は、市全体では、「徒歩」「乗用車」「自転車」の順に多いが、笠岡駅から最も近いCゾーンでは「徒歩」の割合が、次に近いDゾーンやEゾーンにおいては「自転車」の割合が多い。一方で駅からBゾーンやFゾーンにおいては、乗用車の割合が多い。年齢別に見ると、高齢の人ほど路線バスを使って駅に出る人の割合が高い。

<駅周辺交通量の変化>

- 自動車および自転車・徒歩での交通量は、H30年と比較し約1割～2割程度減少している。また、駅周辺での送迎車両は、H30年と比較し概ね半減となっており、時間貸し駐車場の利用も特に19時台の時間帯においては大きく減少している。